



みなもとのよしつね

源義経 は、どんな人だったの



平氏をほろぼすのに大活躍したが、政治に弱い点
が命取りになった、悲劇の英雄だよ。

源義経は1159年に、源義朝の九男として生まれました。幼名は牛若・九郎です。生まれてすぐ、父が平治の乱で敗れ、母(常盤御前)と二人の兄とともに、捕らえられましたが、将来は僧になる、という条件で、命は助かりました。8歳のとき、鞍馬寺にあずけられましたが、成長すると、鞍馬寺を逃げ出して、源九郎義経と名のり、平泉の藤原秀衡に、かくまわれました。

平氏をほろぼすのに大活躍したが、頼朝からにくまれた

1180年、異母兄(母親がちがう兄)の頼朝が、平氏をたおすために旗あげしたと聞くと、頼朝のもとにかけつけ、平氏をほろぼすのに、大活躍しました。しかし、頼朝は、義経をにくみ、暗殺しようとした。その原因は、義経が政治に弱く、頼朝と対立していた後白河法皇側に引きこまれたからだ、などといわれています。義経は、兵を集めるため、船で九州に行こうとしましたが、あらしにあって失敗しました。その後、平泉に逃げて、ふたたび秀衡にかくまわれました。秀衡の死後の1189年、後つぎの泰衡に攻められて、自殺しました。

たくさんの伝説が生まれた

義経は、悲劇の英雄であることから、後の世の人々から同情され、「鞍馬山で、天狗を相手に剣術の修行をした」、「五条の橋の上で、弁慶をやっつけた」など、たくさんの伝説が生まれました。また、鎌倉に送られた義経の首は、くさっていて、本当に義経の首かどうか、わからなかったそうです。このことが、後の世に、「義経は生きて蝦夷(北海道)に逃げた」、「大陸にわたって、成吉思汗(チンギス・ハン)になった」などの伝説を、生むことになりました。

東北地方や北海道のあちこちに、義経が通ったという伝説が残っているよ。

